

# 思い出共有ツールとしての、写真

## Memory sharing by photos.

山下 清美  
YAMASHITA, Kiyomi

専修大学 ネットワーク情報学部  
Senshu University, Faculty of Information and Network

Three researches are summarized to consider the role of photos for "memory communication". 1.The meaning of important photos. 2. The value of family portraits. 3. Photo cooking: Combining unrelated photos to create a new photo.

### 1. はじめに

筆者が関わった3つの研究をたどりながら、写真という素材から引き出され共有される、思い出の働きについて検討する。

#### 1.1 思い出コミュニケーション

思い出は、人々が過去に経験した出来事や交流のあった人々に関する記憶であると同時に、他者に思い出を語ることで、経験を共有し相互理解を深めることにつながる場合が多い。また思い出は、単に過去の記憶を振り返ることにとどまらず、現在の人間関係を促進し、未来の自己のあり方につながる働きを持つ。こうした思い出の機能を筆者は「思い出コミュニケーション」と呼んでいる。思い出コミュニケーションは、主に自己に関わる側面とコミュニケーションに関わる側面とに分けられる。

思い出コミュニケーション(自己の側面)

- ・ 思い出を振り返ることの重要性・・・自分が経験した出来事や人間関係の記憶が蓄積し再構成されて、自己を支える記憶を形成する。
- ・ 過去の自分、現在の自分、未来の自分を統合する性質・・・過去の延長上に自分の未来像を描くことができる。

思い出コミュニケーション(コミュニケーションの側面)

- ・ 思い出を語る(聞いてもらう)ことの重要性・・・他者から自分の存在を承認してもらえる、受け入れられる。
- ・ 家族や友人と思い出を共有することの意義・・・共通の体験や記憶を語り合うことで、人とのつながりを確認できる。
- ・ 人間関係やコミュニケーションを活発にする性質・・・話題のきっかけになる。

#### 1.2 思い出コミュニケーションと写真

写真は、画像そのものだけでなく、そこから引き出される語りも含めて、記憶やコミュニケーションを活性化する働きが強く、思い出コミュニケーションを引き出す典型的な素材である。

現在、写真は誰でも簡単に、また大量に撮影できる。デジタル化の進展により、撮った写真はモニタ上で見るだけで、わざわざプリントせず、ファイルのまま保管することが多くなった。便利になった反面、1枚1枚じっくり見ることや、人と一緒に楽しむ機会が持ちずらくなったとも言える。そのため、写真の持つ意味や価値について改めて確認をし、その価値を維持促進するために何が必要かを早急に検討していくことが必要である。

### 2. 大切な写真

写真は人にとってどのような意味を持っているのか、人が大切だと思う写真にはどのような特徴があるのかを探るために、インタビューあるいはレポートによって、探索的な調査を行った。ここではレポート調査(2002年以降、筆者が担当するいくつかの授業で実施している)について紹介する。

#### 2.1 方法

大学生に、大切な写真5枚を選び、各々について、いつ頃の写真か、誰が(何が)写っているか、どんな状況か、誰がどんなカメラで撮影したか、どのように保存しているか、なぜその写真が大切か、その写真にまつわるエピソードの記憶、を記述してもらった。

#### 2.2 結果と考察

大学2年生 25名が選んだ 140枚の写真の内訳は以下のようになった。

自分ひとり: 9枚(6%) 自分と家族: 19枚(14%)  
自分と友人: 66枚(47%) 集合写真: 17枚(12%)  
自分以外の人: 10枚(7%) 家族2, 友人8  
人以外の対象: 23枚(16%) 風景, 動物など

この他の分析も含めて、レポート調査から得られた主な結果は以下の通りである。

- ・ 大切な写真には、自分自身が写っている写真が圧倒的に多い
- ・ 大切な写真が選ばれる時点やイベントは、人生の頂点(充実した時)や転換点であることが多い
- ・ 集合写真が比較的多い⇒自分の位置づけを確認できる
- ・ 写真そのものというより、出来事や人との関係など、語りによって表現される部分も含めて「大切」である
- ・ 写真は自伝的記憶を引き出す手がかりで、かつその要約になっている可能性がある

レポート調査では、写真についての記述だけでなく、全体を通してのまとめの感想も記述してもらっている。そこから示唆される点として、以下のようなことが挙げられる。

- ・ 単に写真を見るだけでなく、人に語る、あるいは記述することによって、記憶がより鮮明に蘇える
- ・ 大切な写真を振り返ることで、自分自身に対してポジティブな感情が湧いてくる事例が多い
- ・ レポートのために写真を見ていて、家族のコミュニケーションが自然に発生するケースがある

連絡先: 山下清美(専修大学ネットワーク情報学部)

E-mail:yamasita@psy.senshu-u.ac.jp

### 3. 写真館で撮る家族写真の価値

写真というと個人が撮るスナップ写真が一般的だが、イベントなどの機会に写真館で写真を撮ることもある。写真館で家族写真を撮る、という行為を取り上げ、家族写真を撮ることが家族にとってどのような意味があるのかを探る研究を紹介する。

#### 3.1 方法

写真館で家族写真を撮った経験のある家族 20 組に対してインタビューを行った。単独(母親もしくは父親)での参加が 11 組、複数(夫婦、親子、夫婦と子など)での参加が 9 組であった。

協力者には、写真館で撮影した家族写真を3点以上、個人で撮影した家族が写っているスナップ写真3点以上を持参してもらった。それらの写真を見ながら、用意したインタビュー・ガイドをもとに、ある程度自由な流れで約 2 時間のインタビューを行った。質問は、写真館で撮った家族写真について、個人で撮った写真について、写真館について、写真一般について、家族についての5つの領域にわたった。あらかじめ協力者の許可を得て録音し、テキスト化した。

分析では、インタビューが単独か複数か、家族写真のタイプが節物か毎年か、の組み合わせによる4群から各1組を選び、計4組の発言について、グランデッド・セオリー・アプローチを参考にして、詳細な質的分析を行った。これに家族写真の価値に直接関連する質問項目に対する他の 16 組の回答を補完して、家族写真の価値を説明するカテゴリーを抽出した。

#### 3.2 結果と考察

家族写真の意味ないし価値として次の4つを抽出した(Fig.1 参照)。  
 ① イベントとしての楽しみ: 家族のイベントの際にその記念として家族写真を撮る、さらには、家族写真を撮ること自体がイベントとなる。  
 ② 家族の姿の記録: 1枚の写真のなかに家族の姿が凝縮され、貴重な瞬間が記録に残る。  
 ③ 記憶やコミュニケーションの道具: 家族が共有する記憶を引き出したり、家族のコミュニケーションを生み出す道具になる。  
 ④ 写真の利用・活用: きちんとした写真なので、親世代に贈るなど家族外に向けた利用ができる。

家族写真を継続して撮っていくために、家族で一緒に何かする、またそのために協力をする、という家族内の働きかけが生じる。その結果写真そのものだけでなく、家族写真を撮るという行為を通して、家族写真の意味や価値が親世代から子世代に共有され伝達される。

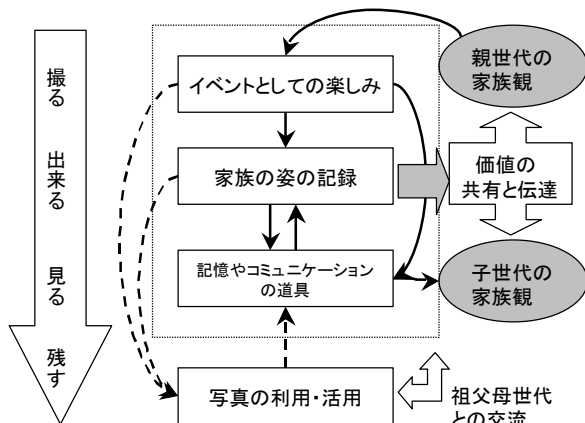


Fig.1 家族写真の意味と家族観との関係

### 4. 無関係な写真に対する興味

写真は通常プライベートなもので、知人以外に見せることは少ない。また逆に他人の写真を見ても、あまり興味がわかないのが普通である。その一方で、最近ネット上に個人の写真を公開し共有するサービスが盛んになってきていることから、自分が撮った写真を他の人にも見てもらいたい、また直接知らない人の写真にも興味がわく、という可能性が潜在していると考えられる。自分とは無関係の写真であっても、そこに何かしら共感したり、親近感を感じたりする力を写真が持っているのではないかと。

筆者が指導する学生たちが、大量のプリント写真を素材にして、自由に写真を組み合わせて楽しむためのツール(Photo Cooking)を作成し、実際に一般の人たちに利用してもらった(Fig.2 参照)。このツールはプリント写真を手にとって見ることの良さ、大量の画像データから特定の画像を呼び出して組み合わせるデジタルの良さを活用している。



Fig.2 Photo Cooking の作成画面と利用場面

#### 4.1 利用方法

大量のプリント写真から、気に入った4枚を選び、写真の裏面のバーコードで画像データを呼び出す。モニタ上で1枚1枚の写真にコメントをつけて、自由にストーリーを作成する。最後に完成した写真とストーリーを、はがきに印刷する。

#### 4.2 考察

Photo Cooking の面白さは、大量のプリント写真の存在感を実感でき、Photo Cooking を楽しむ人と写真(の撮影者、に写っている人物)との間に、またその場にいる人(説明者、他の参加者)との間に、自然と交流が生まれる点にある。

### 5. まとめ

写真を取り巻く環境や写真の位置づけが大きく変化していく中で、写真が持つ思い出コミュニケーションの価値そのものは本質的に維持されていくだろう。その一方で、インターネット上での写真公開や共有など、かつては考えられなかった写真の利用の広がりがある。写真が個人にとって、また人と人とのつながりによって果たす役割が今後ますます注目される。

#### 参考文献

[上津原 2006] 上津原一利・佐藤英次・中田幸恵・山下清美: Photo Cooking: 写真を素材にして写真をつくる楽しみの提案, インタラクション 2006 発表資料, 2006.  
 [山下 2001] 山下清美・野島久雄: 思い出コミュニケーションのための電子ミニアルバムの提案, ヒューマンインタフェースシンポジウム 2001 論文集, pp.261-264, 2001.  
 [山下 2006] 山下清美: 家族写真を撮る行為が家族にもたらす影響, 日本発達心理学会第 17 回大会発表論文集, p. 327, 2006.